

編集後記

◇今回図らずも、トルコを訪ねることが出来ました。今から凡そ30年程前、イスラエルに滞在中、友人とトルコ旅行を計画し、実行寸前まで行ったのですが、友人の都合で延期され、結局はそのままになってしまいました。その延期されていたトルコ旅行が、今回このような形で叶うことになろうとは、考えもしないこいとでした。今日トルコは、イスラムの世界になっており、そのため、キリスト者やキリスト教会から顧みられることは少ないのですが、そこはかつて使徒言行録の舞台となった場所であり、その後も、約1、100年に亘るビザンチン帝国の支配の下、正教会（東方教会）が生き続けた世界なのです。今も、トルコの至る所に、ギリシャやローマ、そしてビザンチン時代の遺跡がゴロゴロしていて、興味が尽きません。イスタンブールは、かつてのコンスタンチノーブルであり、古代信条が生み出された町、ニケヤやカルケドンは、イズニック、カドキョイと名前を変えて、今もトルコのアジヤ側の地域に生き続けています。今回は家内が、旅の報告を致しましたが、次回より何回かに分けて、私が報告をさせて頂きたいと考えています。

◇今回のミニバラNo.14のために、田辺のぞみ姉が“あかし”を書いてくださいました。将来を決するような出会いが、既に高校1年生の時に与えられ、そこで生まれた夢、志が、神に祝福され、御自身の努力の甲斐もあって、今着々と実りつつあることは、本当に素晴らしいことだと思います。私たちも、大いに期待をし、今後共応援をしてゆきたいと考えています。

◇中国地区合同夏期学校の様子を、日曜学校長で、同時に父兄でもある大城恭介兄に書いて頂きました。御一家を挙げての参加は、何よりも嬉しいことでした。（三輪恭嗣）